

ステークホルダーの皆さまへ

私たちの事業と使命

三菱重工グループの総力を結集し、 「2012事業計画」の達成を目指します。



取締役社長

宮永 俊一

取締役会長

大宮 英明

2012年度の世界経済は、東南アジア諸国が成長を維持したほか、景気対策を推進中の中国に持ち直しの兆しが見られたものの、政府債務危機問題を背景とする欧州の弱さが一層鮮明になり、その影響が広く波及する中で、減速の動きが広がりました。我が国経済も、世界経済の減速を受けて輸出や生産が減少するなど、弱含みの動きが見られましたが、復興需要が下支えしたほか、2013年1月以降の財政・金融・為替政策の推進などを背景に、全体としては緩やかに回復しました。

このような状況下において、2012年4月に発表した中期経営計画「2012事業計画」の戦略である「グローバル展開の加速」、「戦略的事業評価によるポートフォリオマネジメント」、「企業統治・業務執行における経営革新」について、具体的施策を意欲的に展開した結果、受注高、売上高は計画を下回ったものの、営業利益、経常利益、当期純利益ともに計画を超過達成し、ROEは7.4%に改善、配当を期初予想6円/株から2円増配の8円/株といたしました。

今後の経済情勢は、回復基調にあるものの、世界市場の開放は今後ともその進展の度を増し、グローバル競争は熾烈さを加えていくことから、当社グループの事業環境はますます厳しくなるものと認識しております。

このような認識のもと、当社グループがグローバル市場におけるリスクへの抵抗力を高め、名実ともに存在感のある企業グループとして勝ち残り、成長していくためには、事業規模の拡大と利益増大による財務基盤の強化をさらに推進していくことが必要であり、特に事業規模の拡大は喫緊の最重要課題と考えております。

「2012 事業計画」は、当社グループが世界で確固不動の地位を築くための第一ステップであり、たゆまぬ改革姿勢のもと、俊敏かつ筋肉質な企業体質を維持しつつ、この計画を着実に推進することで、当社グループを新たな成長軌道に乗せてまいります。

また、当社グループは、今後もCSRを経営の最優先課題と捉え、「ものづくり」を通じて社会の持続的発展に貢献していくとともに、顧客や社会からの期待・信頼に応える企業風土の維持に努めてまいります。

2013年4月、5年間社長職を務めた大宮英明が会長に就任し、副社長の宮永俊一が社長に就任しました。新体制のもと、引き続きこれまで行ってきた改革活動を弛むことなく推進し、「2012事業計画」の達成に向け、全力で取り組んでまいります。

株主・投資家ならびに全てのステークホルダーの皆さまには、さらなるご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長

大宮英明

取締役社長

宮永俊一